

研究主題

よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習

～思考力・判断力・表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実～

研究の概要

1 研究主題及び副主題について

現代社会において、児童が社会の仕組みや働きを理解し、自ら考えて行動する力を養うことは極めて重要である。小学校社会科においては、地理的環境と人々の生活、歴史と人々の生活や、現代社会の仕組みや働きと人々の生活などを学ぶことを通して、公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指している。

「よりよい社会を創造する児童を育てる」ためには、児童と今の社会をつなげる社会的事象との出会いが必要不可欠である。特に社会生活を営んでいる人に学ぶことにより、社会とのつながりを自覚できるようになると考える。県小社研においても、自分と社会のつながりを感じながら、様々な社会的事象への関心をもったり、社会の問題を解決するために自分の考えをもち、他者と協働的に問題解決を図ろうとしたりすることが求められているとしている。

本校では県小社研の研究主題を受け、目指す児童像を設定し、思考力・判断力・表現力を高め、社会参画意識を育てる学習の充実を目指し、授業改善を中心とした研究に取り組んできた。今の社会と未来をつなげる事象との出会いや問いを工夫した授業づくりを通して、児童が自分と社会とのつながりを考えることのできる学びを実現し、これから自分たちができることを考えたり、未来に向けてよりよい社会を考えたりすることにより、児童の社会参画意識を育てていくこととした。



2 目指す児童像

- 社会的事象の特色や意味を理解する児童
- 比較・分類したり、総合したり関連付けたりして特色や意味を考える児童
- 自ら社会への問題を見だし、よりよい社会をつくるために社会の問題に対して、自分なりに関わろうとする児童

3 県小社研の副主題及び、研究内容との関連

県小社研の副主題	塚沢小学校の授業づくりの取組
思考力・判断力・表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実	問いの工夫をした授業づくりを通して、児童が自分と社会とのつながりを考えることのできる学びを実現する。

県小社研の研究内容		塚沢小学校の研究内容	
視点 1	教材開発の工夫 ○社会参画意識を育てるための教材の観点と組み合わせの工夫 教材を、①学校や地域の特色を生かした教材、②生活体験を生かした教材、③社会の今日的な課題に対応した教材の3つに整理し、これら3つの教材の組み合わせを工夫して、単元設定を行っていく。		地域の特色を生かし、社会をより身近に感じられる教材の工夫 ●問題意識が高まり、問いが生まれる社会的事象との出会いの工夫 ●児童の疑問や新たな問いに即したゲストティーチャー（以下GT）の活用の工夫 ●他者と交流しながら、選択・判断や意思決定をしようとする教材の工夫
視点 2	学習過程の構想 ○考えを深める学習問題②の設定 思考力・判断力・表現力を育てるために、1つの学習単元に2つの問い（学習問題①（単元全体に関わる問い）と、学習問題②（「自分」等を主語にした、児童自身がより深く関わる問い））を設け、児童が自分なりに考えを深められるよう学習過程の構想を行っていく。		思考力・判断力・表現力を育てる学習過程の工夫 ●見方・考え方を働かせる問いの設定を意識した学習過程の工夫 ●比較・分類したり、総合したり関連付けたりしながら意味を考え、表現する学習活動の工夫 ●社会的事象の意味を考えたり、社会に見られる課題の解決や関わり方について説明し、自分の事として考えたりする問いの設定
視点 3	評価の在り方と指導の工夫 ○振り返りの充実 児童が社会的事象への関わりを深め、学習の中でよりよい社会を形成していこうとする思いや考えを育てていけるよう、振り返りの充実を行っていく。		児童の学びを確実にする評価の工夫 ●単元ポートフォリオを活用した、まとめと振り返りの工夫 ●指導と評価の一体化を図るための単元ポートフォリオの活用 ●振り返りを深めるための単元ポートフォリオの活用の工夫

4 研究の仮説

児童と社会をつなげる社会的事象との出会いを工夫することで問題意識を高めること、自分の考えを深めるための学習問題を設定すること、単元ポートフォリオを活用し、指導と評価の一体化を図ることは、児童の社会参画意識を育てる学習が実現し、よりよい社会を創造する児童を育てることに有効であろう。

5 研究の視点について

(1) 教材開発の工夫（地域の特色を生かし、より社会を身近に感じられる教材の工夫）

人の営みを学び、地域に愛着をもったり、よりよい社会を考えたりするためには、「児童が社会的事象とのつながりを感じ、社会的事象を捉えるための教材」と「社会の今日的な課題に対応した教材」が必要である。これらの教材が、社会的な見方・考え方を働かせて学習指導要領の教科の目標に到達するように、本研究では、地域の特色を生かし、より社会を身近に感じられる企業や文化財を教材化し、各時間で効果的に活用するよう取り組んでいる。今回の研究では、地元塚沢地域や高崎市の教材として、以

下のような人たちに協力をいただいた。

3年：「わたしたちのくらしと人びとの仕事」おかしをつくる工場（株式会社 原田） 高橋栄次さん

4年：「残したいもの つたえたいもの」多胡碑（多胡碑記念館）職員 西川正道さん

上野三碑ボランティア会 横田公一さん

5年：「これからの工業生産とわたしたち」藤間精練（株） 藤間将太さん

日東電化工業（株）・株式会社 OSAJI 茂田正和さん

6年：「市民の願いを実現する政治」群馬県議会議員 高井俊一郎さん

これらの地域教材を用いた単元を構想する中で、次のような工夫を行った。

①問題意識が高まり問いが生まれる社会的事象との出会いの工夫

学習問題とは、社会的事象との出会いから生まれた児童の問題意識や課題追究意欲をもたせ、学習を方向付けて、単元の目標に迫る学習の問題である。学習問題を設定する時に、どのように社会的事象と出合わせるかの工夫は重要である。そこで、本研究では以下の点を意識した学習問題が立てられるようにした。

- 「この学習をしてみたい」と興味・関心を高めるもの。
- 「この問題を解決することは意味がありそうだ」と必要感をもつようなもの。
- 児童たち自身によって解決への見通しがもてるもの。
- 調べたりまとめたりすることによって目標が達成できるもの。
- 児童たちの力で学習問題について調べることができるもの。

②児童の疑問や新たな問いに即した GT の活用の工夫

児童が社会的事象と出合ったり、問題を解決したりしていく上で、GT は児童の学びを本気にさせる非常に重要な教材である。児童が社会についてもっと考えたいと思う場面で GT を効果的に活用していくことで、より児童の学びが深まっていく。本校では効果的な GT の登場の場面を次の3つの場面と考え、それぞれの場面で効果的な GT の活用について実践を行った。今回の授業提案においても、それぞれの教材の特徴や学年の実態に応じて、次のような場面で GT を登場させている。

- つかむの場面で課題設定をするために GT を活用する。
- 追究の場面で調べるための手がかりとして動画、写真、やり取りができる形で GT を活用する。
- まとめる・いかすの場面で児童が調べたことを評価してもらったり、学習のまとめを深めたりするために GT を活用する。

③他者と交流しながら、選択・判断や意思決定をしようとする教材の工夫

児童が社会的事象の仕組みや働きを学んだ上で、習得した知識などの中から自分ができることを選び出し、自分の意見や考えとして決めるなどして判断するためには、実社会の人々の話を聞いたり、児童同士が話し合ったりすることが必要である。そこで、以下のようなねらいをもつ学習場面を設定した。

3年 工場の工夫と消費者の願いを関連付けて考えることを通して、消費者の願いに応える生産者の思いに気づき、消費者の願いと生産者の思いのつながりについて深く考えることをねらいとしている。

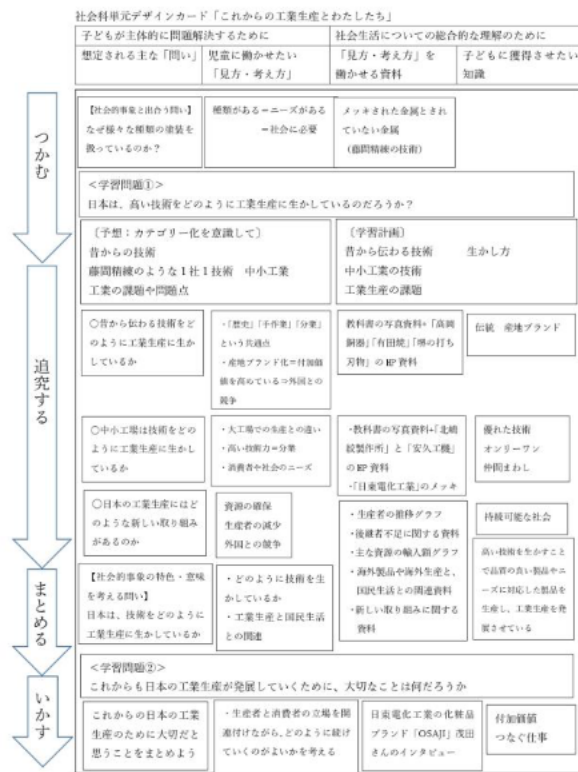
4年 学習してきたことを基に、これからも多胡碑を守り、伝えていくためにはどのような取組が必要なのか考えることを通して、地域に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことをねらいとしている。

- 5年 学習してきたことを基に、これからの日本の工業にとって何が大事かを話合うことを通して、これからの工業の発展について考えることができるようにする。このような活動を通して、生産者や消費者などの立場から多角的に考え、消費者の需要や社会の変化、環境などに対応していくことの大切さを実感するとともに、これからの工業生産について考えることをねらいとしている。
- 6年 高崎市の今後の発展と自分たちの生活とのつながりに目を向け、考えたり、選択・判断したりしたことを、根拠や理由を明確にして論理的に説明できるようにする。このような活動を通して、自らが社会をつくる一人であることを自覚し、これからの社会の発展やよりよい社会の在り方などについて考えることをねらいとしている。

(2) 学習過程の構想 (思考力・判断力・表現力を高める学習過程の工夫)

①見方・考え方を働かせる問いの設定を意識した学習過程の工夫

学習過程の構想を行うにあたり、本校では「社会科単元デザインシート」を活用し、1時間毎の主な「問い」、児童に働かせたい「見方・考え方」、「見方・考え方」を働かせる資料、児童に獲得させたい知識、の4つを確認できるようにしている。このシートを活用することにより、学習過程を考える際に、教師の問い、着目させたい視点、活用する資料、児童が獲得する知識、の4つを意識した授業に取り組んでいる。



②比較したり関連付けたりして意味を考え、表現する学習活動の工夫

小学校学習指導要領社会科において、社会的な見方・考え方は位置や空間的な広がり、時期(視点)、社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること(方法)と示されている。本校では、一人1台端末導入以降、座標軸やフィッシュボーン、データチャートなどのシンキングツールを活用し、比較・分類したり関連付けたりして意味を考える学習活動を通して、思考力・判断力・表現力を高め、概念的知識を獲得できる児童の育成を目指している。

③社会的事象の意味を考えたり、社会に見られる課題の解決や関わり方について説明し、自分の事として考えたりする問いの設定

小学校学習指導要領社会科の内容の取扱いにおいて、主に3・4年では選択・判断したり、5・6年では多角的に考えたりするよう示されている。本校では、学習内容や成長段階に応じて、生産者や消費者という視点をもつための「社会的事象の意味を考える問い」や、現代社会に見られる課題に対して、習得した知識などの中から自分の意見や考えを決めて判断し、よりよい社会を考えるための「社会に見

られる課題の解決や関わり方について議論し、自分の事として考える問い」を学習問題②として設定している。この2つの問いを取り入れることにより、児童が多角的に考えたり、自分と社会とのつながりを意識し、自分自身の考えを広げたり深めたりできるようにした。

- ・社会的事象の意味を考えたり、社会に見られる課題の解決や関わり方について説明し、自分の事として考えたりする問い

3年 「なぜハラダはこんなにいろいろな工夫をしているのだろう」

4年 「上野三碑を守るために、わたしたちにできることは何だろうか」

5年 「これからも日本の工業生産が発展していくために、大切なことは何だろうか」

6年 「これからも生活しやすい街にするために、どうしたらよいだろうか」

(3) 児童の学びを確実にする評価の工夫

①単元ポートフォリオを活用した、まとめと振り返りの工夫

児童が学習を振り返ったり見直したりするために、塚沢小では「単元ポートフォリオ」を活用している。学習問題、予想、学習計画、めあて、まとめ、振り返り、学習全体のまとめや全体の振り返りを1枚でまとめたものである。この単元ポートフォリオの利点として、次のようなことが挙げられる。

- ・1枚のシートで単元の学習全体を振り返ることができる。
- ・時数もわかるので、学習にかかる時間の見通しがもちやすい。
- ・キーワードを蓄積し、その中から単元のまとめに必要な言葉を選びつつ、学習してきた内容も比較・関連させながら、文章を考えさせることで、社会的事象を概念的に捉えたまとめが書けるように指導しやすい。
- ・振り返りの中で児童が学習に向かう態度や自身の学び方に対する変容などを見取りやすい。
- ・他者との比較や共有がしやすい。

②指導と評価の一体化を図るための単元ポートフォリオの活用

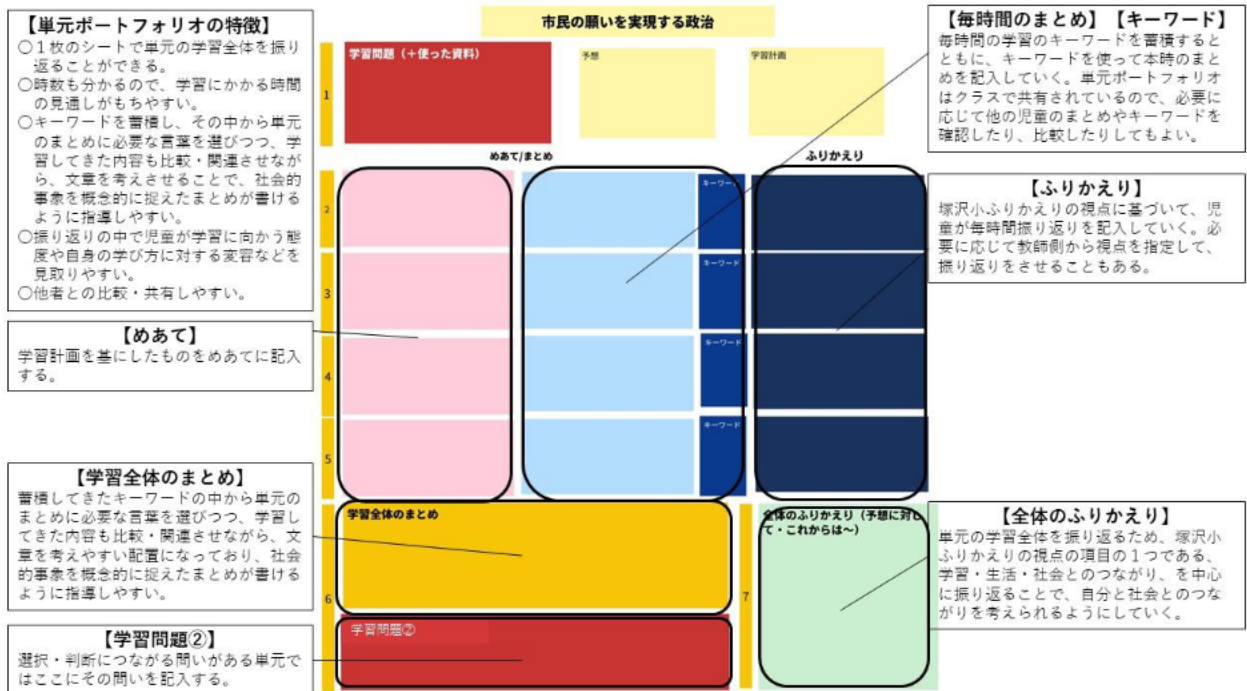
学習問題、学習計画を立てた後、追及する場面で特に調べたい1時間を見守る。この決めた1時間

にまとめや振り返りを評価する。その際、評価規準に則って「おおむね満足できる状況」である「B」以上であるか確認する。評価が「C」の場合には、評価を指導に生かし、全体のまとめや振り返りの場面で「B」になるよう指導していくことを単元を通して実践してきた。

国の政治のしくみと選挙			
	めあて/まとめ		ふりかえり
1	投票するときに、自分が大事に思うことは何か考えよう。	投票しての感想 立候補者の今までの実績、当選したらどんな政治をするのかを知って、よく考えて投票することが大事だと思う。	キーワード 選挙 実績 政治 演説を聞くのは、初めてだから、とてもいい経験になった！演説を聞いて、今の日本には不登校の子どもが、すごく多いことが分かったから、それを解決するための政治をしたことに納得した。
2	学習問題①(十使った資料) 日本国憲法にもとづいて、国民のために国の政治は、どのようなしくみや働きがあるのだろうか。	予想 国会…税金を使うか決定 法律も決める 内閣…税金を使う 司法…法律を使う	学習計画 ①国会 ②内閣 ③司法
3	めあて 国会は、どのようなしくみや働きがあるのだろうか。	まとめ 国会は、衆議院と参議院で分けられ、予算を議決したり、法律を作ったり(立法)をしている。また、衆議院と参議院に分かれており、慎重に話し合いをしている。	キーワード 国会 衆議院 参議院 立法 衆議院と参議院というのは、テレビなどで聞いたことがあったけど、この2つで、会議する議員が分かれていることを初めて知ったから、とても勉強になった！
4	めあて 内閣は、どのようなしくみや働きがあるのだろうか。	まとめ 内閣は、予算をもとに行政を行っている。また、省庁の大臣が集まり、話し合いをして政治を行っている。国民に世論という形でかかわっている。	キーワード 内閣 予算 大臣 世論 今までは、行政をする人だけで、いろんなことを決めていたから、世論調査をして、国民の意見も取り入れていたことを初めて知ったし、驚いた。次の授業は、一番知っていた「司法」についてだから、集中して取り組みたい！
5	めあて 裁判所は、どのようなしくみや働きがあるのだろうか。	まとめ 裁判所(司法権)は、法律にもとづき、問題を解決し、国民の権利を守る仕事をしている。また、裁判のまじかいを防ぎ、人権を守るために、3回まで裁判を受けることと権利があったり、最高裁判所の裁判官を国民審査したりするしくみがある。	キーワード 裁判所 司法権 国民審査 人権 気になっていた司法について知ることができて、とても良かった。裁判は、刑事裁判と民事裁判の2種類あることを初めて知ったし、あまり聞いたことがなくて驚いたから、どなたのものか、知らない次の授業は、全体のまとめのだから上手にまとめられるように、今までどんなことを学習したのか、思い出しながらまとめられるように頑張りたい！
6	学習全体のまとめ 国の政治は、国会の立法権、内閣の行政権、裁判所の司法権を三権分立しながら政治をしている。 例えば、国会は、2つの議院(衆議院、参議院)で国の政治の方向を多数決で決めている。内閣は、国会で決められた予算や法律にもとづいて、実際に政治を行っている。裁判所は、争いや事故、犯罪などが起こったときに、法律にもとづいて問題を解決をしている。 このように、国は、国民のためになるようなことをしていたり、国民に信頼してもらえそうなことを考えて、政治をしている。		全体のふりかえり(予想に対して・これからは～) 今日の単元を勉強する前は、「国の政治のしくみと選挙」という題名から、あまり自分の生活と関わりがなさそうな、難しい内容の勉強だと思っていたけれど、実際に勉強してみると、今すぐ、国民審査・選挙などをやるのではなく、大人になってから関わることだと大人数で学んだ。また、この単元の1番最初の授業で、実際の演説などを聞いて、演説の内容と、それをきくと聞いて考えることがすごく大切だと分かったから、大人になってから選挙などをするときに、適当に選ぶのではなく、その立候補者のことを知り、考えて、慎重に選ぶようにしたい！
7	学習問題② 国民のくらしをより良くするために、大切なことは何だろう。		①「平野の実験」が1番大事なことだと思ふ。 ②「自然災害を防ぐ」が2番目に大事なことだと思ふ。 理由 ③日本が平和だったから、もし、食料が足りなくなっても外国に頼ることができるといいなと思ったから。 ④自然災害によって、多くの命が犠牲になってしまう可能性があるから、「自然災害を防ぐ」ということは、国民の生活を守ることに役立つと思ったから。

③振り返りを深めるための単元ポートフォリオの活用の工夫

塚沢小振り返りの視点に基づいて、振り返りをを行っている。特に、まとめの場面やいかすの場面では、塚沢小振り返りの視点の1つである「学習・生活・社会とのつながり」と「新たな疑問など」に視点を置いて振り返りを行うことにより、自分と社会とのつながりを意識したり、社会に見られる課題に気付いたりできるように取り組んでいる。また、振り返りに関しては、過去の振り返りや他者の振り返りを参考にできるように、単元ポートフォリオを共有できるようにしている。



6 研究の成果と本大会に向けた課題

(1)成果

- 教材の開発の工夫を行い、児童が主体的に問いを見いだし追究していく学習を展開することによって、児童は問題意識を高め、主体的に学習に取り組むことができた。特に、児童が問いをもつための社会的事象との出会いとしてGTの活用の工夫が効果的であった。
- 「社会科単元デザインシート」を活用して学習過程の構想を行うことで、教師の問い、着目させたい視点、活用する資料、児童が獲得する知識を押さえた上で授業を行った。これにより、児童から出た予想や学習計画を大切に、児童の問題意識を高めた上で学習問題を追究することができた。
- 昨年度から社会科の授業において単元ポートフォリオを活用しており、児童は毎時間のまとめや振り返りを本時のキーワードや振り返りの視点を基にまとめられるようになってきた。単元ポートフォリオを活用し続けることにより、社会的事象を概念的に捉えたまとめや、自分と社会との関連を意識した振り返りを書ける児童が増えてきている。

(2)課題

- 選択・判断したり、意思決定したりしたことを他者と交流する場面において、自分と社会との関わり方について自分の考えや学習してきたことを根拠に他者と交流しているが、他者の多様な意見を総合したり関連付けたりして、自分と社会との関わり方をより深められるよう、交流の仕方や視点を改善していく必要がある。

- 単元ポートフォリオを活用して単元のまとめを書く場面において、キーワードの羅列になってしまう児童もいるので、社会的事象を概念的に捉えたまとめになるよう、まとめに向けた学習の振り返り方や問いとまとめの整合性など、それぞれの学年での単元のまとめ方について、引き続き授業改善を行っていく必要がある。
- 単元ポートフォリオを活用した指導と評価の一体化に関しては、評価したことをどのように指導に生かしていくか、まだ実践の積み重ねが少ない。引き続き、学年に応じた適切な指導への生かし方を考えていきたい。

社会科学習指導案

令和6年11月7日(木)
第5校時 3年2組教室
3年2組 指導者 林 達也

1 単元名

『おかしをつくる工場』

2 教材観

本単元は、下記の小学校学習指導要領社会科〔第3学年〕の内容(2)のア(ア)及びイ(ア)を受けて設定されたものである。

(1) ア(ア) 生産の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解すること。

イ(ア) 仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え、表現すること。

上記のことを受け、本単元では、高崎市にある「ガトーフェスタハラダ」を取り上げている。ガトーフェスタハラダのラスクは、市内だけでなく、全国的にも有名であり、児童にとって身近で親しみをもってのおかしである。販売の仕事は、地域の人々の生活と密接な関わりをもって行われていることを理解することを通して、消費者の願い、販売の仕方などに着目して、販売に関わっている人々の仕事の様子を捉え、それらの仕事に見られる工夫を考えることをねらいとしている。本単元の学習を通じ、消費者の多様な願いや思いを踏まえて売り上げを高めるよう、工夫して行われることを理解するとともに、身近にハラダのラスクがあることで自分たちの生活が豊かになり、高崎市に工場があることを誇りに思えるような心情を育てたい。

3 研究の視点

(1) 教材開発の工夫	(2) 学習過程の構想	(3) 評価の在り方と指導の工夫
○地域の特色を生かし、社会をより身近に感じられる教材の工夫 ・つかむ過程において、ガトーフェスタハラダについてゲストティーチャー(GT)に話をしていただき、その話から児童がハラダについて疑問をもち、学習問題や学習計画をつくれるようにする。 ・調べる過程において、GTの方々に協力していただいて撮った動画や写真を提示することで、各時間のめあてに、より迫りやすくする。 ・まとめる過程において、作ったポスターをGTにも見ていただき、児童に向けて評価やコメントをもらうことで児童の社会参画意識を高められるようにする。	○思考力・判断力・表現力を育てる学習過程の工夫 ・調べる過程やまとめる過程において、思考ツールを使って考えたり、整理したりすることで、各時間で学んだことを関連付けて考えられるようにする。 ・学習問題②では、「なぜハラダはこんなにいろいろな工夫をしているのだろう。」と設定し、生産者の思いと消費者の願いのつながりを意識し、生産の仕事と自分たちの生活とのつながりに気付けるようにする。 ・調べたことや考えたことをグループの友達に伝えたり、グループ内の意見をまとめてクラスに発表したりする学習活動を取り入れることで、表現力を高められるようにする。	○児童の学びを確かにする評価の工夫 ・追究する過程で各時間に集めたキーワード(ラスクカード)を使って、学習全体のまとめを書くことで、工場がしている工夫や努力を理解できるようにする。 ・単元ポートフォリオに書かれた1時間ごとのまとめや振り返りを確認し、次時での声掛けや指導を工夫することで、指導と評価を一体化できるようにする。

単元構想 社会科 3年・わたしたちのくらしと人びとの仕事【おかしをつくる工場】 10月～11月 全12時間予定

単元の目標		単元の系統		評価規準			
<ul style="list-style-type: none"> ●【知識及び技能】 ①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などについて地図や資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子を理解する。【(2)ア(ア)(イ)】 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接なかわりをもって行われていることを理解する。【(2)ア(ウ)】 ●【思考力、判断力、表現力等】 ①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見だし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え表現する。【(2)イ(ア)】 ②工場仕事の様子や地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現する。【(2)イ(イ)】 ●【学びに向かう力、人間性等】 ①地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとする。【(小)第3学年の目標(3)】 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする。 		3年 地域に見られる生産や販売の仕事(本単元) → 5年 くらしを支える食料生産 → 5年 くらしを支える工業生産 → 5年 環境を守るわたしたち		◇指導に生かす評価 ◆評定に用いる評価			
本単元に係 る 児童の実態		<ul style="list-style-type: none"> ●【知識及び技能】 スーパーマーケットの仕事や種類について、意欲的に学習に取り組んで調査できる児童は多いが、必要な情報を正確に取捨選択できる児童は少ない。また、文にまとめることを苦手とする児童も多くなる。 ●【思考力、判断力、表現力等】 スーパーマーケットの仕事や働く人の工夫や努力に着目し、自分で見たことを表現することはできるが、自ら問いを見出し、内容を関連付けて表現できる児童は少ない。 ●【学びに向かう力、人間性等】 スーパーマーケット見学など、販売の仕事に関心が高いが、見通しをもって学習に取り組んだり、まとめた内容に関して系統的に振り返ったりすることが難しい児童もいる。 					
過程	時間	ねらい	主な学習活動 (◎はめあて)	主な支援・指導上の留意点	評価規準		
					知	思	主
く か む	1	○地図やグラフ、写真等の資料を読み取 ることを通して、高崎市の工場の概要 を理解できるようにする。	◎高崎市にはどんな工場があるのか調べよう。 ○地図(わたしたちの高崎市)やグラフを見て、高崎市の工場につ いて気付いたことを話し合う。	○各種資料を読み取り、分かったことや気付いたこと、疑問等を伝え合うことで、学級全体で情報を共有できるよ うにする。	◇		
	2	○ラスク工場について疑問に思ったこ とやこれから調べたいことを話し合 うことを通して、学習問題をつくり、 学習計画を立てられるようにする。	◎ハラダのラスクについて学習問題を考え、学習計画を立てよう。 ○ハラダのラスクをもっと知ってもらうには、どんなことを調べれ ば良いかを話し合い、学習問題をつくる。 ○予想を出し合い、学習計画を立てる。	○高崎市の地図からハラダのラスクは自分たちの住む地域でつくられていることに気付かせる。 ○ガトーフェスタハラダの方に協力してもらい、昔は小さな町の商店だったガトーフェスタハラダがここまで成長 してきた歴史を児童に伝えてもらい、児童の本単元を学習する意欲を高める。 ○なぜハラダがここまで成長してきたのかを予想し、それをもとに学習問題や学習計画をつくれるようにする。			◇
		【学習問題①】ガトーフェスタハラダは、どのような工夫や努力をしてラスクをつくっているのだろうか。					
調 べ る	3	○工場が高崎市にできたわけを調べ、 様々な利点があることを理解でき るようにする。	◎新町に工場ができた理由を調べよう。 ○高崎市の地図を利用して気づいたことや考えたことをノートに まとめる。	○高崎市の地図を見ながら工場付近にあるもので、気づいたことを出し合う。 ○なぜ、駅やインターチェンジ、埼玉県に近い場所に工場があるのか、グループで交流する。 ○授業で理解したことや考えたことを自分の言葉でまとめ、振り返られるようにする。	◇		
	4	○お菓子の原料とでき方について調べ、 ラスクの作業工程を理解できるよ うにする。	◎ハラダのラスクの原料とでき方について調べよう。 ○お菓子の原料が何でどこから届いているのかを予想して話し合 い、ラスクができるまでをまとめる。	○ラスクの原料と作り方について予想する。 ○ラスクの包装紙の裏面にある材料表記部分や原料など写真を提示して、イメージできるようにする。 ○昔前は、ラスクは食パンの耳を加工して手作りのできるものであったが、ハラダではフランスパンから製造し、 機械を利用して生産し、丁寧に包装されていることをパンフレットの資料やタブレットの画像を利用して理解し やすくする。	◇		
	5	○工場で作る人のくふうについて調べ、 衛生面に気をつけてつくっているこ とを理解できるようにする。	◎工場ではたらく人はどんな工夫をしているか調べよう。 ○自分の予想や疑問に思ったことを整理して、資料から読み取った ものをノートにまとめる。	○はたらく人のくふう(服装・仕事内容・気を付けていることなど)を出し合う。 ○ハラダ以外にも「食べ物を取っている工場」(森永・ロッテ)のバーチャル工場見学のサイトから衛生・安全面の ページを紹介し、共通点を探した上で、なぜ細心の注意を払っているのか考えられるようにする。 ○「食べ物を取っている人」の身近なところから、給食室での安全・衛生面について紹介する。栄養士をT2とし て招き、職員がエアシャワーを使用する姿を動画で見たり、気を付けていることをインタビューしたりするこ とではたらく人の思いを理解できるようにする。	◇		
	6	○原料が運ばれてくる地域や、製品の配 送先、配送方法などを調べ、高崎市と 国内外の他地域とのつながりに気付 けるようにする。	◎原料はどこからきて、製品はどこへ行くのか調べよう。 ○原料はこだわったもの(県内や国外のもの)を使用し、デザイン 性の高い包装紙を利用して高級感をもたせた商品を県内だけ でなく、全国で販売していることを調べてまとめる。	○ラスクを作るためのフランスパンの材料に、独自にブレンドした群馬県産の品質の良い小麦粉や卵、砂糖、パター ンが使用されていること、デザイン性を重視した包装紙も群馬県内の企業で制作されたものを利用しているこ と、お菓子の箱や梱包のためのダンボールも県内産であること、消費者が買いたくなるような工夫をしているこ となどを資料を読んでまとめる。 ○工場で作られたお菓子がどのように全国へ出荷・販売されるか今まで学習したことをもとに予想し、グループ内 で交流する。	◇		
	7	○ガトーフェスタハラダの商品につい て調べ、主要商品だけでなく、様々な 商品を展開していることに気付ける ようにする。	◎ハラダの商品にはどんな工夫があるのだろうか。 ○パンフレットやホームページで調べる。 ○グループや全体で意見を交流する。	○ハラダが作っているラスクをスライドで提示し、通常のラスクだけでなく限定販売しているものや多彩なプレー パーや有名なキャラクターとのコラボ商品が毎年開発されていることを理解できるようにする。	◇		

	8 (本時)	○工場の工夫と消費者の願い（ニーズ）を関連付けて表現することで、生産の仕事と自分たちの生活とのつながりを考えられるようにする。 【学習問題②】 なぜハラダはこんなにいろいろな工夫をしているのだろうか。	◎なぜハラダはこんなにいろいろな工夫をしているのだろう。 ○めあてについて、予想する。 ○グループで意見交流し、意見をまとめる。 ○各班で考えた理由を全体で共有し、生産者の思いとお客さんの願いのつながりについて考える。 ○ガトーフェスタハラダの高橋さんのコメント動画を視聴する。	○消費者である保護者へのアンケート結果や児童の気持ちや願いを確認していくことで、お客さん一人ひとりには様々な気持ちや願いがあり、それに応えようと生産する側が努力や工夫していることに気付けるようにする。 ○全体交流では、児童の意見に対して教師が問い返しをすることで、「消費者の願い」と「生産者の思い」のつながりについて深く考えることができるようにする。 ○実際に働いている人の思いを確認することで、自分たちの考えと比較し、考えを修正したり、付け加えたりできるようにする。		◇	
の ま の ま	9	○学習してきたことを振り返り、工場で働く人の努力や工夫についてまとめられるようにする。 学習問題への答え【ガトーフェスタハラダは、・・・してラスクをつくっている。】 (例)：ガトーフェスタハラダではたらく人は、衛生面に気をつけたり、品質の良い製品をつくったり、食べる人が飽きない工夫をしたり、お客さんのことを考えてラスクをつくっている。	◎ハラダはどんな工夫や努力をしてラスクをつくっているのかをまとめよう。 ○学習問題への答えとして、これまでに出てきたキーワードをもとにして文でまとめよう。 ○自分がまとめた文をグループ内で説明し、互いに助け合おう。	○今までラスクカードに溜めてきたキーワードを全体で確認し、工場がしていた工夫や努力を全員で共有する。 ○学習問題への答えを書く際には語彙を提示することで、文章を書くのが苦手な児童でも書けるようにする。	◇	◆	
い か す	10	○学習してきたことをもとに、ガトーフェスタハラダの工夫を知ってもらうために自分たちにもできることを考える。	◎ハラダの工夫や努力を知ってもらうために自分たちにもできることを考えよう。 ○自分たちにもできることを個人で考える。 ○班になり、考えた方法について話し合う。 ○全体で共有し、自分たちが取り組む方法を決める。	○児童から出た意見を座標軸を使って話し合い、4つの視点（1人で、大人数で、今、将来）で分類していく。 ○分類した後「今すぐに、自分たちでも出来る」という視点でこれからまとめるのはどれが良いかを話し合い、本単元のまとめとしてポスターを書くようにする。		◇	
	11 12	○ガトーフェスタハラダの魅力や良さをポスターで表現できる。	◎ハラダの魅力や良さが伝わるポスターを書こう。 ○ガトーフェスタハラダの魅力や良さが伝わるようなポスターをつくる。	○絵や写真も積極的に入れ、他学年やハラダの方が見ても分かりやすいようにまとめるよう伝える。 ○書いたポスターはガトーフェスタハラダの館内にかざってもらえることを児童に伝える。			◆
<p>単元の評価規準</p> <p>【知識・技能】 ①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などについて地図や資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、生産の仕事に携わっている人々の仕事の様子を理解している。 ②調べたことをキャッチフレーズや文などにまとめ、生産の仕事は、地域の人々の生活と密接なかわりをもって行われていることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ①工場の仕事の種類や工場の分布、仕事の工程などに着目して、問いを見だし、生産に携わっている人々の仕事の様子について考え表現している。 ②工場の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 ①地域に見られる生産の仕事について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</p>							

5 本時の学習

(1) ねらい ガトーフェスタハラダの工夫とお客さんの思いを関連付けて表現することで、生産の仕事と自分たちとのつながりについて考えることができる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間	支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手立て
<p>1. 今までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。</p> <p>【ハラダの工夫】</p> <p>①原料へのこだわり ②衛生面の徹底 ③厳しい検査 ④商品の開発</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて：なぜハラダはいろいろな工夫をしているのだろうか。</p> </div>	6	<p>○今まで調べたガトーフェスタハラダの工夫を4つの視点に分けて提示することで、ガトーフェスタハラダがなぜこんな工夫をしているのかについて児童が自分の疑問をもち、本時のめあてにつながられるようにする。</p>
<p>2. めあてについて、予想する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①の例 ・おいしいものを食べてほしい ・お客さんのため</p> <p>②の例 ・安心して食べてほしい</p> <p>③の例 ・買って後悔させたくない ・残念な気持ちになってほしくない</p> <p>④の例 ・いろいろな味を食べてほしい ・お客さんがうれしい</p> </div> <p>3. グループで意見交流し、意見をまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(④を担当した班の例)</p> <p>・ガトーフェスタハラダは〜〜(理由)〜〜から<u>いろいろな商品をつくる工夫</u>をしている。</p> </div> <p>4. 各班で考えた理由を全体で共有し、生産者の思いとお客さんの願いのつながりについて考える。</p> <p>5. ガトーフェスタハラダの高橋さんのコメント動画を視聴する。</p>	4 7 15	<p>☆予想が難しい児童には、「誰のために工夫しているのか」を問い、ハラダがお客さんのことを思って工夫していることに気付けるようにする。</p> <p>○グループで意見交流をすることで、様々な考え方に触れ、個人の学びを共有できるようにする。</p> <p>○友達の考えを聞いて、付け足したい意見があれば記入してもよいことを伝える。</p> <p>○消費者である保護者へのアンケート結果や児童の気持ちや願いを確認していくことで、お客さん一人一人には様々な気持ちや願いがあり、それに応えるために生産する側が努力や工夫していることに気付けるようにする。</p> <p>○全体交流では、児童の意見に対して教師が問い返しをすることで、「お客さんの思い」と「生産者の思い」のつながりについて深く考えられるようにする。</p> <p>○実際に働いている人の思いを確認することで、自分たちの考えと比較し、再考したり、新たな視点を付け加えたりできるようにする。</p>
<p>6. 本時のまとめをして、振り返りを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>まとめ(例)</p> <p>ガトーフェスタハラダは、<u>お客さんの気持ちやねがいにこたえるために、</u>いろいろな工夫をしている。</p> </div>	8	<p>○児童の言葉からまとめを全体でつくっていくようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◇〔思〕ガトーフェスタハラダの工夫とお客さんの願いを関連付けて表現し、生産の仕事と自分たちとのつながりを考えている。</p> <p>(単元ポートフォリオ)</p> </div>

1 単元名

『残したいもの 伝えたいもの』

2 教材観

本単元は、下記の学習指導要領社会科第〔4学年〕の内容(4)のア(ア)及びイ(ア)を受けて設定されたものである。

- (4) ア(ア) 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解すること。
イ(ア) 歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現すること。

上記のことを受け、本単元では、高崎市に残されている「上野三碑」を取り上げている。上野三碑は、古くから地域の人々に大切に受け継がれ、近年にはユネスコ記憶遺産にも登録された。地域の伝統と文化の歴史的背景や時間の経過、人々の願いや生活との関連を踏まえて理解することを通して、地域の文化財の保存・継承を自分事と捉え、自ら関わろうとする態度を身に付け、地域社会の一員としての自覚を養うことをねらいとしている。しかし、児童の生活背景から文化財の存在はかけ離れており、文化財や年中行事が当たり前のように残されていると思っている児童は多い。本単元の学習を通じ、保存や継承に関して自分たちにできることを考え、選択・判断する活動を行うことで、郷土の伝統や文化に興味や関心をもって主体的に関わることの基盤を養うことができるようにしたい。

3 研究の視点

(1) 教材開発の工夫	(2) 学習過程の構想	(3) 評価の在り方と指導の工夫
<p>○地域の特色を生かし、社会をより身近に感じられる教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学で調査した多胡碑記念館の職員の方やボランティア会会長さんの協力のもと、インタビュー動画を活用することで、地域の方の保存・継承の具体的な取組について知ったり、考えを深めたりすることができるようにする。 ・学習問題②において、ゲストティーチャーから保存・継承の課題について課題をいただくことで、児童が自分の事として課題を解決していこうとする意識を高められるようにする。 	<p>○思考力・判断力・表現力を育てる学習過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「上野三碑かるた」を活用し、かるたの絵札、読み札から気になることを一人一人に考えさせ、この疑問を解消していくという必要感のある問いを設定する。 ・追究する過程において、歴史の時間的経過(時)・現在に至るまでの出来事(事)・事象への人の関わりや人の願い(人)の3つ視点を示し、児童が社会的な見方・考え方を働かせて資料活用や考えを深められるようにする。 	<p>○児童の学びを確かにする評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究する過程で単元ポートフォリオに集めたキーワードを使って学習全体のまとめを書くことで、地域の人々が保存・継承のための取組や努力や願いについて理解することができるようにする。 ・「塚沢小ふりかえりの視点」を活用して単元ポートフォリオに振り返りを書くことで、自分自身を見直しながら学習に取り組めるようにする。

単元構想 社会科 4年・残したいもの 伝えたいもの 10月～11月 全11時間予定

単元の系統		3年「市のうつつりかわり」→ 4年「わたしたちの群馬県」→ 大単元 きょう土に伝わる願い → 残したいもの 伝えたいもの (本単元) → 地域発展につくした人々 → 5年「情報化した社会と産業の発展」 → 6年「日本の歴史」				
本単元に係る児童の美観		<ul style="list-style-type: none"> ●【知識及び技能】県内の文化財や年中行事について聞いたことがあるものが複数あるものの、知識はほとんどないと言える。白地図にまとめることは経験してきたが、年表にまとめて表すことは初めてである。 ●【思考力、判断力、表現力等】学んだことをいかしたりつなげたりして自己の考えを表現する力が不十分である。いくつかの情報や資料から必要なものを選択・判断することができない児童も数名いる。 ●【学びに向かう力、人間性等】資料から分かること、自分の考えを書くことに抵抗感があり、学習に見通しや自信がもてずにいる児童が数名いる。社会科の学びと自分たちの生活とのつながりがあり意識されていない。 				
過程	時間	ねらい	主な学習活動 (◎はめあて)	主な支援・指導上の留意点	評価規準 ◇指導に生かす評価 ◆評定に用いる評価	
つかむ	1	○県内の文化財や年中行事について、主な文化財や年中行事の名前や地域の位置などを捉えることを通して、県内には古くから残るものが多くあることを理解できる。	◎群馬県には、どのような古いものがあるのだろうか。 ○写真資料をもとに、群馬県に古くからあるものについて知っていることや自分たちの経験を出し合い、自分の認識に不十分さがあることを知る。 ○地図資料や文章資料から、県内の文化財や年中行事が県内に分布していることを知る。 ○県内の文化財や年中行事をさらに調べ、名前や位置を白地図に書き込み、情報を集める。 ○全体で共有し、さらに多くの情報を白地図に蓄積する。	○県内の文化財や年中行事を想起しやすくできるように、副読本の資料や上毛カルタに出てくるものを取り上げながら話し合わせるようにする。 ○白地図にまとめることで、県内には、多くの文化財や年中行事が分布されていることに気付かせ、今後の学習に繋がるような問い返しをし、児童が関心をもてるようにする。 ○できるだけ多くの情報を白地図に書き込んでいけるように、個人で調べた内容をグループや全体で共有し合う場を設定する。 ○「文化財」「年中行事」などの用語の解説を行い、これからの学習にいかせるようにする。	◇	
	2	○上野三碑について、もっと知りたいことや疑問等を話し合うことを通して、学習問題を立て、学習計画を立てられる。 学習問題① 群馬県に古くから残る上野三碑は、どのように受け継がれてきたのだろうか。	◎上野三碑についてもっと知りたいことを話し合い、学習問題を立て、学習計画を立てよう。 ○社会科見学の際に作成した「上野三碑かるたの絵札から気になったこと、調べてみたいと思ったこと」を確認する。(個人→全体) ○疑問の中から、社会科見学で解決したことを班で確認する。 ○上野三碑について、知りたいことや疑問に思ったことを話し合い、全体で話し合う。 ○上野三碑について知りたいことを全体で確認し、学習問題をつくる。 ○学習問題に対する予想を立て、調べる内容や方法を考え、学習計画を立てる。	○様々な予想や疑問を整理しやすくするため、黒板に以前作成した「上野三碑かるたの絵札から気になったこと、調べてみたいと思ったこと」を提示する。 ○児童の考えから学習問題を設定できるように、児童の予想や疑問の傾向を捉えながらキーワードを示していく。 ○社会科見学で解決できた疑問は省いていく。また、もっと知りたいことや疑問を話し合い、分類することで、思考を整理しながら、児童の言葉で学習問題をつくれるようにする。 ○分類に迷う疑問が出てきた際は、学級全体に問い返ししながら決めていくことで、児童が自分の事として課題を捉えられるようにする。 ○学習問題に対する予想を考慮することで、今後の学習に対する意欲や見通しをもち、学習計画を立てることができるようにする。 ○予想に対する学習計画が適切に立てられているか確認する。根拠がない予想を立てた児童には、問い返しをしながら確認し、全体で共有していく。 ○まとめの段階まで意識して学習に取り組めるように、学習計画は表にして教室掲示しておく。	◇	
追究する	3・4	○上野三碑の歴史的背景や現在に至る経過を調べることを通して、石碑の価値や建てた人々の思いを理解できる。	◎上野三碑は、どのような石碑なのだろうか。 ○上野三碑の写真資料、文章資料から、気付きや疑問を話し合う。 ○上野三碑について、いつ、どのような目的で建てられた石碑なのか資料をもとに調べる。 ○「時・事・人」の視点で上野三碑の歴史的背景やこれまでの出来事、それらの時期について整理する。 ○資料から読み取れる石碑の価値や建てた人の思いを話し合い、分かったことをノートやタブレットにまとめる。 ○「上野三碑のここがすごい！」カードを記入する。	○社会科見学で見学した資料館の写真や上野三碑の副読本を提示し、上野三碑がどんなものなのかを確認する。 ○上野三碑の中から、社会科見学で見学したこと、聞いてきたことを中心に話し合わせる。 ○上野三碑の睡ましい歴史的背景は省き、児童が理解しやすい資料に精選する(いづごろ、だれが建てたか、石碑に何が書かれているのか、石碑にはどんな価値があるのか)。 ○社会科見学で聞いた多胡碑記念館長さんの話(動画資料)も適宜使用する。 ○上野三碑の時間の経過や成り立ちを分かりやすくするために、表にしてまとめさせる。 ○「上野三碑のここがすごい！」カードに記入させ、蓄積し今後の学習に生かす。「上野三碑のここがすごい！」カードは、内容1つにつき2枚書かせ、1枚は自分用、もう1枚は学級共有用として蓄積していく。(学級共有用は教室掲示し、いつでも見られるようにしておく) ○上野三碑の保存・継承に関わる苦労について話し合うことで、文化財の保存・継承にかかわる人々の努力や工夫に気付くことができるようにする。また、次時からの学習に意欲をもてるようにする。	◇	
	5・6	○上野三碑がどのように保存されてきたのかを、人々の思いと関連付けて考えることを通して、文化財保存・継承のための取組の意義を捉えられる。	◎上野三碑は、どうして今日まで残っているのだろうか。 ○これまで学習してきたことを単元ポートフォリオで振り返り、本時の学習内容を確認する。 ○上野三碑の保存・継承にかかわる資料から、気付きや疑問を話し合い、予想を立てる。 ○「時・事・人」の視点で上野三碑のこれまでの保存・継承の取組、それらに関わった人々について整理する。 ○明治時代以降の保存に関わる取組の資料を「守る」と「広める」で区別し、その目的や思いについて考え、自分の考えを書く。 ○全体で話し合ったことをもとに、「努力」と「工夫」の視点から多胡碑が今も大切にされている意義を考え、ノートにまとめる。	○前時の学習を単元ポートフォリオや表で振り返り、本時からの学習の見通しをもたせる。 ○2時間扱いとし、前時は自力解決に、次時は集団解決に時間を確保する。 ○上野三碑の保存に関わる写真資料を見せ、予想を立てさせる。また、各自に予想を立てさせることで、課題解決のための必然性をもたせるようにする。 ○自分の言葉でまとめられるように、保存・継承の取組をキーワードで残していく。 ○保存に関わる取組の中身が「守る」と「広める」の内容となるような資料を精選し、児童が偏りなく資料選択できるようにする。 ○多胡碑記念館職員の方の西川さんやボランティア会横田会長さんのお話を聞くことで、実際に多胡碑の保存・継承にかかわっている地域の人々の努力や願いに気付けるようにする。 ○「上野三碑のここがすごい！」カードに記入させ、蓄積し今後の学習に生かす。さらに、時・事・人に分類・比較させることで、関わる人々の工夫や努力に気付けるようにする。	◇	
まとめる①	7	○自分なりの考えをもち、表にまとめることや意見交流することを通して、上野三碑が今日まで受け継がれてきたことをまとめられる。 学習問題①の答え：(例) 群馬県に古くから残る上野三碑は、家族や地域への思いを込めて建てられ、地域の人々の努力やさまざまな工夫により、約1300年の間、受け継がれている。	◎群馬県内に古くから残る上野三碑について、どのように受け継がれてきたのかをまとめよう。 ○これまで扱った資料、調べた内容や自分の考えを単元ポートフォリオやノートで振り返りながら、表に整理する。 ○これまでの出来事や取組と、そこに関わった人々の願いが繋がっていることをまとめる。 ○学習問題の答えとして、まとめられるようにこれまでに蓄積してきたキーワードを確認し、自力で考えた後、班で共有して、話し合う。	○追究する過程で得られた知識や学び方をいかすことができるように、新たに調べたことは行わず、表や単元ポートフォリオを振り返らせ、表を整理させる。 ○単元ポートフォリオで、これまでに蓄積してきたキーワードを確認させ、キーワードをもとにまとめた文を自力で考えさせる。その後、班で共有し、話し合わせ検討させる。 ○「上野三碑かるたの絵札から気になったこと、調べてみたいと思ったこと」を再度振り返らせ、自分の疑問が解決できたかどうかを確認させる。	◆	

	8	○上野三碑の保存・継承の課題について調べた上で、これからの文化財保存・継承について考えるため、学習問題②を立てられる。 学習問題② 永遠に上野三碑を守るために、わたしたちにできることは何だろうか。	◎これからの上野三碑は、どうなっていくのだろうか。 ○多胡碑記念館の西川さんとボランティア会横田会長のインタビュー動画を視聴する。 ○多胡碑記念館の西川さんやボランティア会横田会長の話や多胡碑記念館の入館者数の推移などの資料から、気づきや疑問を話し合う。 ○課題をもとに、2つ目の学習問題をつくる。	○多胡碑記念館の西川さんやボランティア会横田会長から、上野三碑や多胡碑の保存・継承の課題について話を聞くことで、県内の文化財の保存・継承への課題意識を高められるようにする。 ○エネコス登録時と現在の入館者数を比較させたり、上野三碑の保存・継承にかかわる新たな取組を調べたりすることで、今後の文化財の保存・継承の在り方について考え、新たな学習問題をつくれるようにする。 ○「上野三碑かるたでの絵札から気になったこと、調べてみたいこと」の中で、児童が多く疑問にもった「永遠に地域で守る 上野三碑」の絵札を再度取り上げ、児童に課題を投げかける。 ○次時の学習に繋げるために、多胡碑記念館の西川さんやボランティア会横田会長からの課題を黒板に掲示し、「上野三碑を多くの人に知ってもらおう」ことが最大の課題であることに気付けるようにする。		◇
いかす	9	○学習してきたことをもとに、蓄積してきた表やカードを振り返ることを通して、上野三碑の伝えたい魅力について、自分なりの考えをもてる。	◎上野三碑を受け継ぐために、わたしたちにできることを考えよう。 ○前時の学習を振り返り、新たな課題を解決するために自分にできることを考える。 ○多くの人に知ってもらおうという課題を解決するために、これまで学習してきた上野三碑の魅力の中から、上野三碑のどのような魅力を伝えたいかを考える。 ○「上野三碑のここを伝えたい！」カードを作成する。	○前時に立てた学習問題②から、最大の課題である「上野三碑を多くの人に知ってもらおう」という課題に気付かせるために、児童に問い返しをしていく。 ○これまで蓄積してきた「上野三碑のここがすごい！」カードを振り返らせることで、これまでの学習をもとに、上野三碑のどのような魅力を多くの人に知ってもらいたいかを考えさせ、「上野三碑のここを伝えたい！」カードを作成させる。 ○自分の考えを書く時には、「上野三碑のここがすごい！」カードの中から、その魅力について、思考ツールを活用し、3視点（時、事、人）を与えることで思考を整理しながら、自分の考えをもてるようにする。 ○視点を考えやすくするために、キーワードを黒板に掲示しておく。		◇
	10 (本時)	○学習してきたことをもとに、上野三碑の魅力について意見交流する活動を通して、保存・継承に関わる人々の願いや努力と関連付けて考え、表現できる。	◎上野三碑の魅力をより伝えるために「上野三碑のここを伝えたい！」を見直そう。 ○上野三碑のどのような魅力を多くの人に知ってもらいたいかを考え、前時に作成した「上野三碑のここを伝えたい！」カードを友達と交流し、さらに深める。 ○友達と意見交流し、自分の考えを再考する。 ○多胡碑記念館の西川さんやボランティア会横田会長の話を聞き、考えを深める。	○資料を提示し、多胡碑記念館の西川さんの話から、課題となる資料を提示し、今日のめあてに繋がれるようにする。 ○前時に作成した「上野三碑のここを伝えたい！」カードでは、十分に魅力が伝わらないという意識をもたせるために、児童に問い返しをし、必然性をもち学習活動に取り組めるようにする。 ○友達と意見交流する時間を十分に取り、自分の取組を再考できるようにする。 ○自分の考えの変化に児童自身が気付けるように、加筆修正は赤鉛筆で書かせる。 ○多胡碑記念館の西川さんやボランティア会横田会長の話から、「子どもたちへのメッセージ」動画を視聴し、自分たちにできることについて考えられるようにする。		◆ ◆
まとめる	11	○学習してきたことをもとに、これからの県内の古いものについて考えられる。	◎これからの県内の古いものについて考え、学習をふりかえろう。 ○これまで扱った資料、調べた内容や自分の考えを単元ポートフォリオやノートで振り返りながら、単元全体の振り返りを記入する。	○全体の振り返りでは、単元ポートフォリオを活用しながら、単元の最初の振り返りと本時の振り返りを比較させることで、児童自身が自分の考えの変化に気付けるようにする。 ○県内、市内に残る文化財や校区に残る古いものにも触れ、単元で学んだことをいかにするために、自分の生活を振り返らせるようにする。		◇ ◇

単元の評価規準

- 【知識・技能】①県内の文化財や年中行事について、地図やインターネットで必要な情報を集め、群馬県に古くからあるものの名前や様子、位置を理解して白地図や表にまとめている。
②県内の文化財や年中行事の様子や歴史的背景、現在に至る経過、保存や継承の取組を調べ、そこに關わる地域の人々の様子や願いなどを理解している。
- 【思考・判断・表現】①県内の文化財や年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承の取組の工夫や努力、人々の願いに着目して予想や疑問を考え、表現している。
②県内の文化財や年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承の取組の工夫や努力を人々の願いに関連付けながら考え、地域に残されている意義をまとめ、表現している。
- 【主体的に学習に取り組む態度】①県内の文化財や年中行事について、学習問題を追究するための計画を主体的、協働的に立てたり見直したりして、学習の見直しをもっている。
②学習したことを関連付けながら、地域の伝統や文化の保存や継承に關わって自分たちにできることなどを考え、選択・判断しようとしている。

5 本時の学習

(1) ねらい 学習してきたことをもとに、上野三碑の魅力について意見交流する活動を通して、保存・継承に関わる人々の願いや努力と関連付けて考え、表現することができる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間	○支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手だて
<p>1. 本時のめあてをつかむ。</p> <p>・上野三碑の歴史的背景(時)・石碑の価値(事)・人々の思い(人)</p> <p>・上野三碑のここを伝えたい!</p> <p>・1300年も前の碑が今でも残っているのがすごい。(時)</p> <p>・終戦後に国からの命令を受けて、多胡碑を土の中に埋めて、守ったことがすごい。(物)</p> <p>・日本に18個しかない古碑の中で、群馬県に3個碑も残っているなんて、すごい。(物)</p> <p>めあて：上野三碑の魅力を伝えるために「上野三碑のここを伝えたい!」を見直そう。</p>	8	<p>○既習事項をタブレットに写しながら、前時の学習内容を全体で共有できるようにする。</p> <p>○「上野三碑を多くの人に知ってもらおう」ことが最大の課題であり、そのことを解決するために、前時までに作成してある「上野三碑のここを伝えたい!」カードを振り返り、児童に問い返しをしていくことで、本時のめあてにつなげられるようにする。</p> <p>○また、各自の考えは、ゲストティーチャー(GT)に見ていただくという目的をもつことで、児童の学習意欲を高められるようにする。</p> <p>○保存・継承のための取組をそれに関わる人々の願いや努力と関連付けて考えさせるために、前時に作成した「上野三碑のここを伝えたい!」カードを再考するという学習活動の目的を理解させる。</p> <p>○意見交流し、再考する際の視点を伝え、主体的に学習活動に取り組めるように促す。</p>
<p>2. 上野三碑の魅力を深めるために、意見交流する。</p> <p>①班で意見交流 ②全体で意見交流</p> <p>・1300年も前の碑が今でも残っているのがすごい。(時) ⇒誰が残してきたの? どうやって残してきたの?</p> <p>・終戦後に国からの命令を受けて、多胡碑を土の中に埋めて、守ったことがすごい。(物) ⇒誰が何のために守ったの?</p> <p>・日本に18個しかない古碑の中で、群馬県に3個碑も残っているなんて、すごい。(物) ⇒今日まで残ってきたのは、誰のどのような努力によって?</p>	25 (15) (10)	<p>○視点を考えやすくするためにキーワードカードを黒板に掲示しておく。</p> <p>○比較・検討させる際には、「人々のどのような願いが込められていたか」「人々のどのような努力があったか」という視点を与えることで、課題の解決に向けた自分なりの考えをもてるようにする。</p> <p>☆再考の仕方がわからない児童の参考になるように、班の中の異なる意見に目を向けさせたり、問い返ししたりすることで考える手がかりを得られるようにする。</p> <p>○意見交流し、自分の考えに加除修正がある場合は、変化を視覚的に捉えやすくするために、赤鉛筆で記入させる。</p> <p>○全体交流では、児童の意見に対し教師が問い返しや視点を与えて共有を行うことで、人々の願いと努力が関連していることを再確認する。</p>

<p>3. 多胡碑記念館職員西川さん、ボランティア会横田会長の話を聞く。</p>	<p>7</p>	<p>◆〔思〕 県内の文化財や年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存・継承の取組を人々の願いや努力と関連付けて考え、地域に残されている意義をまとめ、表している。(話合いの様子、ワークシート)</p> <p>○GTの「未来を担う子どもたちへのメッセージ」を聞くことで、自分が伝えたい魅力に価値付けをして、自分事として捉えられるようにする。</p>
<p>4. 本時のふりかえりをする。</p> <p>・上野三碑は、多くの人々の努力や願いによって、今日まで受け継がれてきていた。県内には他にも、文化財や年中行事があるので、まずは上野三碑のように、知ることから始めたい。</p>	<p>5</p>	<p>○「つかむ」過程で作成した群馬県文化財マップを活用し、上野三碑だけでなく、県内の文化財や年中行事に着目できるようにする。</p> <p>☆振り返りを共有し、誰でも見られるようにすることで、他者の考えを知ったり、学びを深めたりできるようにする。</p> <p>◆〔主〕 学習したことを関連付けながら、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって自分たちにできることなどを考え、地域社会の一員としての自覚を高めようとしている。(話合いの様子、ワークシート、単元ポートフォリオ)</p>

社会科学習指導案

令和6年11月7日(木)
第5校時 5年1組教室
5年1組 指導者 高月 到

1 単元名

『これからの工業生産とわたしたち』

2 教材観

本単元は、下記の小学校学習指導要領社会科〔第5学年〕の内容(3)のア(ア)(イ)及びイ(イ)を受けて設定されたものである。

(3) ア(ア) 我が国では様々な工業生産が行われていることや、国土には工業の盛んな地域が広がっていること及び工業製品は国民生活の向上に重要な役割を果たしていることを理解すること。

(イ) 工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解すること。

イ(イ) 製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、工業生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

上記のことを受け、本単元では伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術、新しい工業生産の取組を理解するとともに、日本の工業生産の課題を理解した上で、今後の工業生産の在り方や発展について考えようとする態度を養うことをねらいとしている。工業生産は社会や生活を支える重要な産業であり、自分の生活との関わりや現在の工業生産が置かれている状況、これからの工業の発展について考えることは児童にとって価値があることだと考える。本単元の学習を通じ、よりよい社会、持続可能な社会の実現に向け、今後の日本の工業生産の在り方や発展について自分の考えをもち、表現できるようにしたい。

3 研究の視点

(1) 教材の開発の工夫	(2) 学習過程の構想	(3) 評価の在り方と指導の工夫
○地域の特色を生かし、社会をより身近に感じられる教材の工夫 ・校区にある企業2社(藤間精練、OSAJI)の協力のもとインタビュー動画を作成、活用することで、児童の生活との関連や優れた技術への理解を深めたり、課題や取組などをもとにこれからの工業生産について考えたりできるようにする。 ・いかず過程では、OSAJIの茂田さんよりこれからの工業生産に対しての願いを話していただくことで、社会と自分とのつながりという意識を高められるようにする。	○思考力・判断力・表現力を高める学習過程の工夫 ・つかむ過程において、資料などからの気付きや予想のもとに、児童とともに学習問題や学習計画を作成していくことで、単元の学習全体の見通しをもてるようにする。 ・学習問題②において、今日の工業生産の課題に対し、それを解決してより発展していくためにどうすればよいかを考えさせることで、自分なりの考えをもち、より広い視野で社会的事象について考えられるようにする。	○児童の学びを確実にする評価の工夫 ・追究する過程で単元ポートフォリオに集めたキーワードを使って学習全体のまとめを書くことで、優れた技術を生かした工業生産について理解できる。 ・単元ポートフォリオに書かれた1時間ごとのまとめや振り返りを確認し、次時での声掛けや指導を工夫することで、指導と評価を一体化できるようにする。 ・「塚沢小ふりかえりの視点」を活用して単元ポートフォリオに振り返りを書くことで、自分自身を見直しながら学習に取り組めるようにする。

単元構想 社会科 5年・これからの工業生産とわたしたち 11月 全7時間予定

単元の系統		3年 生産や販売の仕事 → 4年 伝統的な工業が盛んな地域 → 5年 わたしたちの国土 → 大単元 わたしたちの生活と工業生産 → 自動車をつくる工業 → 工業生産を支える輸送と貿易 → 本小単元：これからの工業生産とわたしたち					
本単元に係る児童の実態		<ul style="list-style-type: none"> ●文章や資料を読み、気付いたことを書いたり情報を集めたりできる児童は多いが、集めた情報を取捨選択したり、自分や相手が調べた情報を比較したりできる児童は少ない。 ●資料から読み取った情報を関連付けたり、学習した内容をもとにしたりしながら、構わる人々への思いも入れて自分の考えをまとめられる児童が少ない。 ●工業生産について、地理的な工業の広がりが大工場での生産の様子などを捉えられている児童は多いが、自分の関わりや現在の工業生産が置かれている状況について考えられている児童は少ない。 					
過程	時間	ねらい	主な学習活動 (◎はめあて)	主な支援・指導上の留意点	評価規準		
					知	思	主
つかむ	1	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を読み取って出た気付きや疑問を話し合うことを通して学習問題をつくり、学習計画を立てられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日本の工業生産について学習問題を考えて、学習計画を立てよう ○製造業で働く人のグラフや日本発の工業製品の資料などの比較から気付いたことや疑問などを話し合い、学習問題をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○食料生産における課題や取組を問いかけることで、工業においても課題があり、それを解決しようとする取組があることを想起できるようにする。 ○日本発で児童にもよく知られている工業製品をいくつか提示し、日本の工業製品は国内だけでなく世界でも人気があることを伝えることで、単元の学習に興味や関心が高まるようにする。 ○地域の企業の方の話から、中小工場の技術力の高さや生活との関連などに気付けるようにする。 ○児童から出た言葉を使いながら学習問題や学習計画を立てるようにする。 ○学習問題①への予想と学習計画を立てさせることにより、主体的に学習活動に取り組めるようにする。 ○予想に対して何を調べるのかを考えさせることで、自分なりの考えをもちながら調べ学習を進められるようにする。 			◇
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○昔から伝わる技術を工業生産に生かしていることを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎昔から伝わる技術をどのように工業生産に生かしているのか ○福井県鯖江市のめがね製造の様子について調べる。 ○「高岡銅器」「有田焼」「堺打刃物」について調べ、「鯖江めがね」も含めて全体の共通点を考えて話し合う。 ○「地域ブランド」という言葉の意味を考える。 ○伝統的な工業生産について文章でまとめ、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの生産品を調べる場面では、「歴史があること」「主に手作業であること」「いろいろな作業を分業(分担)していること」「品質が高いこと」を共通点として捉えられるように補足資料を工夫する。 ○「地域ブランド」の意味について考える場面では「影響にも何かないか?」→「高崎だるま」も例として取り上げることで、全国で様々なブランドが作られていることの理解が高まるようにする。 ○何を書くか迷わないよう、まとめのリード文をめあてと揃えておくようにする。 	◇		
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○中小工場が優れた技術を工業生産に生かしていることを理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎中小工場は高い技術をどのように工業生産に生かしているのか ○教科書で取り上げられている「北條製菓製作所」と「安久工場」の例について調べる。 ○2つの例をもとに、中小工場の技術が高い理由について考えて話し合う。 ○「オンリーワン」という言葉の意味を考える。 ○中小工場のすぐれた技術について文章でまとめ、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の資料2と大田区の工場概要を示す追加資料を提示することで、10人以下の工場が多いことや機械・金属関連が多いことなどの特徴に気付けるようにする。 ○教科書の写真では何を製造しているところなのかを予想させることで、中小工場の技術について興味や関心が高まるようにする。 ○技術力の高さや仲間まわし、オンリーワンへの理解が高まるように、2つの工場に関する追加情報を資料として配付する。 ○「藤岡精練」のメッキ加工について紹介し、高い技術についての理解が高まるようにする。 	◇		
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の工業の課題を解決するための新しい取組について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日本の工業生産では、どのような新しい取組があるのか ○前単元の学習や各種資料から、日本の工業生産が抱える課題を考える。 ○課題を解決する新しい取組について、教科書や資料集の資料をもとに調べる。 ○工業生産の新しい取組について文章でまとめ、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前単元の内容を想起させることで、日本の工業生産が輸入に頼っている現状は今後の課題になるということをつまえられるようにする。 ○児童から出た意見を分類し、課題と取組のつながりがわかるようにワークシートを工夫する。 ○まとめでは新しい取組の共通点と考えさせることで、持続可能な社会を捉えられるようにする。 	◇		
つなぐ	5	<ul style="list-style-type: none"> ○学習したことをもとに、日本の伝統的な技術や中小工場の優れた技術、工業生産の抱える課題と解決策についてまとめられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎日本は高い技術をどのように工業生産に生かしているのかをまとめよう ○学習問題への答えとして、これまでに出てきているキーワードと「追究する」過程の2～4の学習内容をもとにして文でまとめる。 ○まとめの文をグループ内で説明し、助言し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題①を確認させ、答えとして入れるべきキーワードについて話し合わせることで、これまでの学習内容を比較、関連しながらまとめの文章を考えられるようにする。 ○学習問題①への答えについて、単元ポートフォリオを確認しながら各時間のまとめの文章を参考にしたり全体で共有したキーワードを入れたりして書くよう助言する。 ○まとめの文をグループ内で説明し合う時間を取り、学習問題①の答えとして必要な情報が入っているかをお互いに確認し、助言できるようにする。 	◆		
		<ul style="list-style-type: none"> ○地域の企業の方のインタビューを聞く。 ○日本の工業生産の課題に対して学習問題②を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の企業の方から、これからの日本の工業生産に関する課題や持続可能性などについてのインタビューを聞くことで、日本の工業生産への課題意識を高められるようにする。 ○岡野工業の「痛くない注射針」と辻谷工業の「砲丸」の資料を提示し、製造業で働く人口が減少することの問題についての理解を高められるようにする。 ○「アップルiphone」「サムスンGalaxy」といったスマートフォンの例を提示し、海外製品が日本でも人気があることを捉えられるようにする。 ○児童が着用している衣服の生産国を確認させたり、「ユニクロ」や「無印良品」といった「海外生産→低価格」の例を出したりすることで、消費者は海外生産の恩恵も受けていることを捉えられるようにする。 				

いかす	6 (本時)	○これからの日本の工業生産のために大切だと思うことについて、考えたことを表現できる。	◎これからの日本の工業生産にとって大切なことは何かを考えよう ○最も大切だと思ったことについて理由を考え、カードにまとめる。 ○グループで交流する。 ○自分のランキングとカードを再度確認し、考えが変わった箇所を動かしたり、理由を付け足したり、新しく理由を考えたりする。 ○これまでの学習とランキングをもとに、学習問題②に対する最終的な自分の考えをまとめてロイロノートに提出する。 ○全校全体で学習問題②に対する答えを共有する。 ○学習を振り返る。	○前時のインタビューで述べられていた内容をキーワード化して示したり、これまでに学習した内容との関係を問い返したりすることで、工業生産が抱える課題や解決に向けた取組と6つの視点との関連付けがしやすいようにする。 ○前時で考えたランキングをもとに意図的に座席を配置しグループ化することで、交流の時に自分とは違った考えの児童と交流できるようにする。 ○6色のカードにしておくことで、考えを交流する際に、視覚的に優先度の位置付けが分かりやすいようにする。 ○生産者や消費者の立場を入れながら選んだ理由と根拠となる学習内容や資料を考えさせることで、日本の工業生産について多角的に考えられるようにする。 ○ロイロノート上で思考ツールを確認させることで、優先度1位のカードだけでなく全体のランキング自体も比較できるようにする。 ○初発の考えとは別枠で答えを書かせることで、比較しながらより説得力のあるまとめを書けるようにする。		◆	
かいたる②	7	○学習したことをもとに、これからの日本の工業生産について考えられる。	◎これからの日本の工業生産について考え、学習をふりかえろう ○地域の企業の方から、学習問題②の答えに対する評価とこれからの工業生産についての話を聞く。 ○これまでの学習や振り返りをもとに、単元全体の振り返りを書く。	○地域の企業の方から、これからの日本の工業生産に対する考えを聞くことで、自分の生活や将来との関連性を高められるようにする。 ○事前に学習問題②に対する児童の答えを地域の企業の方に評価してもらい、生産者と児童とのつながりが深まるようにするとともに、自分の事として話を聞くことができるようにする。 ○「これからの工業生産と自分」という視点で振り返りをさせることで、今の自分の生活や未来の工業生産との関わりについて考えられるようにする。		◆	

単元の評価規準

- 【知識・技能】①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などについて地図帳や地球儀、各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、工業生産の課題を理解している。
②調べたことを図表や文などにまとめ、原材料や資源の多く輸入している我が国の工業生産の現状をふまえて、消費者の需要や社会の変化に対応した新しい技術の開発などが重要であることを理解している。
- 【思考・判断・表現】①伝統を生かした工業、中小工場の優れた技術などに着目して、問いを見出し、工業生産の課題について考えを表現している。
②工業生産について学習してきたことを総合して工業生産の課題について考え、学習してきたことをもとに、消費者や生産者の立場などから多角的に考えて、適切に表現している。
- 【主体的に学習に取り組む態度】①これからの工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追及し、解決しようとしている。
②学習したことを基に、消費者の需要や社会の変化に対応する工業生産の役割や発展について考えようとしている。

5 本時の学習

(1) ねらい これからも日本の工業生産が続いていくために大切だと思うことについて、考えたことを表現することができる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間	支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手立て
<p>1.学習問題②と現在の答え、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて これからの日本の工業生産にとって大切なことは何かを考えよう</p> </div>	5	<p>○前時のインタビューで述べられていた内容をキーワード化して示したり、これまでに学習した内容との関係を問い返したりすることで、工業生産が抱える課題や解決に向けた取組と6つの視点との関連付けがしやすいようにする。</p> <p>○前時に考えたランキングをもとに意図的に座席を配置しグループ化することで、交流の時に自分とは違った考えの児童と交流できるようにする。</p>
<p>2.最も大切だと思ったことについて理由を考え、カードにまとめる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・日本は資源が無い国なので、世界中の国と仲良くして資源を確保することが一番大切だと思ったから。</p> <p>・外国に負けない技術を高めていかないと、外国の製品だらけになって日本の生産者がさらに少なくなってしまうと思うから。</p> </div> <p>3.ロイロノートに提出し、グループで交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・外国に負けない高い技術が一番大切だと思ったけれど、環境のことも考えた方がいいかも。</p> <p>・伝統も大切にしないと、品質のいい製品が少なくなると思う。</p> </div>	15 (5) (10)	<p>○6色のカードにしておくことで、考えを交流する際に視覚的に優先度の位置付けが分かりやすいようにする。</p> <p>○生産者や消費者の立場を入れながら選んだ理由と根拠となる学習内容や資料を考えさせることで、日本の工業生産について多角的に考えられるようにする。</p> <p>☆考えをまとめられていない児童には、関係のある資料や単元ポートフォリオの記述を見返しながら生産者や消費者にとって大切なことを考えるよう助言することで、学習したことを根拠としながら考えられるようにする。</p> <p>○ロイロノート上でダイヤモンドランキングを確認させることで、優先度1位のカードだけでなく全体のランキングも比較できるようにする。</p>
<p>4.自分のランキングとカードを再度確認し、考えが変わった箇所を動かしたり、理由を付け足したり、新しく理由を考えたりする。</p> <p>5.ランキングをもとに学習問題②に対して最終的な答えをまとめ、ロイロノートに提出する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・これからの工業生産のためには、環境を守ることが大切だと思う。なぜなら、持続可能な社会のためには環境にやさしい製品づくりが必要だと思うから。そのような製品をつくるための高い技術も大切になると思う。</p> </div>	25 (5) (5)	<p>○考えが変わってカードを動かしたら矢印を描いたり、書き換えや付け足しをした内容などは赤字で記入させたりすることで、初発の考えからの変化や新たな気づき、考えの深まりが分かるようにする。</p> <p>○初発の考えとは別枠で答えを書かせることで、比較しながらより説得力のあるまとめを書けるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆〔思〕学習したことをもとに、これからの日本の工業生産について、資源の確保や環境への配慮などの視点から多角的に考えようとしている。(単元ポートフォリオ)</p> </div>

<p>6.学習問題②に対する答えを全体で共有する。</p> <p>7.学習の振り返りを書き、次時の学習の確認をする。</p>	<p>(8)</p> <p>(7)</p>	<p>○ロイロノート上で共有することで、多様な考えに触れられるようにする。</p> <p>○特に「塚沢小のふりかえりの視点⑥⑦」で振り返らせることで、本時での自分の学び方や生活とのつながりなどを想起できるようにする。</p>
--	-----------------------	--

1 単元名

『市民の願いを実現する政治』

2 教材観

本単元は、下記の小学校学習指導要領社会科〔第6学年〕の内容(1)のア(イ)及びイ(イ)を受けて設定されたものである。

(1) ア(イ) 国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解すること。
 イ(イ) 政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現すること。

上記のことを受け、本単元では、地方公共団体の政治は国民生活と密接な関係をもっていること、それらの政治は国民主権の考え方を基本として、国民の願いを実現し国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることなどをもとに、地方公共団体の政治の働きについて理解することをねらいとしている。

児童はこれまでに、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解するとともに、立法、行政、司法の三権がそれぞれの役割を果たしていることを学習してきた。本単元では、これらのことをもとにして、主権者として求められる資質・能力を育成する観点から、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて自分たちの行動や生活の仕方、これからのよりよい社会の在り方などについて表現する力を育てることができるようになりたい。

3 研究の視点

(1) 教材開発の工夫	(2) 学習過程の構想	(3) 評価の在り方と指導の工夫
<p>○地域の特色を生かし、社会をより身近に感じられる教材の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊岡地区にできる新駅設置に向けた動きを調べることで、市役所、市議会、税金についてつながりを感じながら調べることができるようにする。 ・追究する過程において、市議会の動きを調べるときにゲストティーチャーに質問をする機会を設けることで、問題解決できるようにする。 ・いかず過程において、ゲストティーチャーよりこれからの社会に対して学んでほしいことを話していただくことで、社会参画意識を高めることができるようにする。 	<p>○思考力・判断力・表現力を育てる学習過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめる過程において、児童が調べた市役所、市議会、税金についての働きを共有し、図にまとめさせることで、関連付けながら意味を捉えられるようにする。 ・学習問題②では、今日的な課題を解決する内容を設定することで、高崎市のよりよい社会の在り方を考えられるようにする。 	<p>○児童の学びを確かにする評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追究する過程で単元ポートフォリオに集めたキーワードを使って、学習全体のまとめを書くことで、地方公共団体の政治の取組を理解できるようにする。 ・単元ポートフォリオに書かれた1時間ごとのまとめや振り返りを確認し、次時での声掛けや指導を工夫することで、指導と評価を一体化できるようにする。 ・「塚沢小のふりかえりの視点」から単元ポートフォリオに振り返りを書くことで、自分自身を見直しながら学習に取り組めるようにする。

単元構想 社会科 6年・市民の願いを実現する政治 10月～11月 全8時間予定

単元の目標		単元の系統					
<p>●【知識及び技能】①地方公共団体の政治は、国民主権の考えの下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できる。【(1)ア(イ)】 ②政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて調べ、必要な情報を集め、まとめることができる。【(1)ア(ウ)】</p> <p>●【思考力、判断力、表現力等】世の中の様子、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して問いを見出し、地方公共団体の政治の取組について考え、表現することができる。【(1)イ(イ)】</p> <p>●【学びに向かう力、人間性等】①地方公共団体の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとする。【第6学年の目標(3)】 ②学習したことをもとに、自分と社会とのつながりに気づき、よりよい社会を考え生活に生かそうとする。【第6学年の目標(3)】</p>		<p>3年 わたしのまち みんなのまち → 4年 住みよいくらしをつくる → 4年 自然災害からくらしを守る → 6年 国の政治のしくみと選挙 → 6年 本単元 → 中学3年 現代の民主政治と社会</p>					
<p>●写真や絵などの資料から社会的事象を捉えることができるが、文章資料や教科書から社会的事象を捉えることが苦手である。 ●学んだことを生かしたりつなげたりして自己の考えを表現するのに時間がかかる児童が多い。昔と今の相違点を考える視点はもっているが、それを文章にして表現する力は弱い。 ●普段から学習を振り返る意識はもっており、学びを自分の事としてつなげる児童が少しずつ増えてきている。地域や社会をよりよくするために何かしてみたいと思っている児童が少ない。</p>							
過程	時間	ねらい	主な学習活動 (◎はめあて)	主な支援・指導上の留意点	評価規準 ◇指導に生かす評価 ◆評定に用いる評価		
					知	思	主
つかむ	1	<p>○資料を読み取って出た気づきや疑問を話し合うことを通して学習問題をつくり、見直しをもてる。</p> <p>◎高崎市の政治について学習問題を考え、学習計画を立てよう ○高崎市が住みやすい街として中核市「幸福度」ランキング(2020年)の上位にあることや保護者アンケートから気付いたことを話し合う。 ○高崎問屋町駅の写真と開業による変化の資料をもとに話し合い、学習問題をつくる。</p> <p>学習問題①【高崎市は、多くの人々が生活しやすく集まる街にするために誰がどのような取組を行っているのだろうか。】</p>	<p>○新しい駅計画の資料をもとに、学習問題に対する予想を考える。 ○予想に対して調べることを調べる計画を立てる。</p>	<p>○児童から出た言葉を使いながら学習問題や学習計画を立てるようにする。 ○中核市「幸福度」ランキングや保護者アンケートを比較することで、高崎市が住みやすいまちづくりのために努力していることに気付くことができるようにする。 ○高崎問屋町駅の開業当時の写真と人口の変化を提示することで、駅沢地区に人が集まるようになってきたことを実感できるようにする。 ○豊岡地区に令和8年にできる新駅についての広報高崎の資料を示すことで、学習問題への予想と計画を立てることができるようにする。 ○予想に対して何を調べるのかを考えさせることで、自分なりの考えをもちながら調べ学習を進められるようにする。</p>	◇	◇	◇
	2・3	<p>○市役所、市議会、税金それぞれの働きを調べ、必要な情報をあつめ、まとめられる。</p> <p>◎市民の生活をよりよくするために、市役所や市議会はどういう取組をして、お金はどのように集められ使われているのだろうか ○新駅をつくるにあたり、市役所と市議会、お金はどのようにになっているか、3つの視点に分かれて調べる。 ○広報高崎やインターネットから市民の要望を取り入れながら、調整してきた高崎市役所の働きを調べる。 ○新駅に向けて市議会ではどのような話し合いがなされてきたのか、実際の議会録画を見ながら調べる。 ○ゲストティーチャーに関き、市議会の働きを詳しく調べる。 ○新駅をつくるためのお金について、広報高崎の資料から税金の働きを詳しく調べる。</p>	<p>○市民の生活をよりよくするために市役所、市議会、税金の3つの視点から新駅設置に向けた働きを調べることで、主体的に問題に対して調べることができるようにする。 ○市役所を調べる人には、広報高崎の資料やホームページに載っている市民の要望の資料を提示することで、市の取組の内容を捉えることができるようにする。 ○市議会を調べる人には、実際の高崎市議会ホームページから答弁を検索できることを示すことで、具体的な市議会の働きを調べることができるようにする。 ○市議会を調べる人には、ゲストティーチャーとインターネットを使ってインタビューする機会を作り、市議会議員の役割を調べることができるようにする。 ○税金について調べる人には、高崎市の収入と支出が分かる広報高崎の資料を配付することで、どのようにお金が集まり、何に使われているのか調べることができるようにする。</p> <p>キーワード：【市役所の働き】計画 予算 申請 補助(金) 【市議会の働き】市議会議員 条例 請願 【税金の働き】税金 納税</p>	◇	◇	◇	
めぐる	4	<p>○市役所、市議会、税金のそれぞれの働きを図にまとめ、関係を捉えられる。</p> <p>◎市役所、市議会、税金はどのように関係し合っているのだろうか ○自分自身が調べたことを、他の人に発表する。 ○発表をもとに、関係図を作成する。</p>	<p>○市役所、市議会、税金の3つの視点で調べた人々を一つの班にすることで、調べた内容を責任をもって発表することができるようにする。 ○調べた内容をもとに図に表す活動を行うことで、それぞれが関連していることに気付くことができるようにする。 ○それぞれの共通点を探すことで、必ず市民が中心であることを捉えられるようにする。</p>	◇			
	5	<p>○学習したことをもとに、市民の願いを実現しようとする高崎市の政治についてまとめられる。</p> <p>◎高崎市が生活しやすい街にするために何をしているのかをまとめよう ○学習問題①の答えとして、これまでに出てきているキーワードと「追究する」過程の内容をもとにして文でまとめる。 ○まとめの文をグループ内で説明し、助言し合う。</p> <p>学習問題①の答え 例：市の政治は、市民の要望をもとに、わたしたちの生活の安定と向上を図る大切な働きをしている。</p> <p>○高崎市の年齢別人口の変化の資料から気付いたことを出し合い、学習問題②を考える。</p> <p>学習問題②【これからも生活しやすい街にするために、どうしたらよいか。】</p>	<p>○学習問題①を確認させ、答えとして入れるべきキーワードについて話し合わせることで、これまでの学習内容を比較、関連しながらまとめの文章を考えられるようにする。 ○学習問題①の答えについて、全体で共有したキーワードをもとに、各時間のまとめの文章を参考に書くよう助言する。 ○まとめの文をグループ内で説明し合う時間を取り、学習問題①の答えとして必要な情報が入っているかお互いに確認できるようにする。 ○平成21年と令和6年の年齢別人口の変化のグラフを提示することで、学習問題②を考えることができるようにする。</p>	◆			

いかす	6・7	○高崎市がこれからも生活しやすい街になるために何ができるのか、考えてまとめられる。	◎高崎市がこれからも生活しやすい街にするためにできることを考えよう ○学習問題②に対して、取り組むべきことを思考ツールに表す。 ○思考ツールをもとに班で話し合い、大切なキーワードを導き出す。 ○班の中で一人、市議会議員立候補役を決め、市民に対して訴えることを考える。	○思考ツールを活用することで、自分自身の考えを整理することができるようにする。 ○班での話し合いを取り入れることで、生活しやすい街づくりという目的に適した答えを考えられるようにする。 ○市議会議員候補役を設定することで、意欲的に考えられるようにする。 ○演説の内容を考える際に、市役所や市議会、税金の働きの図を活用させることで、実現可能である答えを考えられるようにする。 ○今までの市の公共的な事業が書かれた資料を参考にすることで、根拠ある演説にすることができるようにする。		◇
	8 (本時)	○学習したことをもとに、これからの高崎市について考えられる。	◎立候補者の演説を聞き、これからの高崎市について今の自分の考えをもとに ○市議会議員立候補役の演説を聞く。 ○投票を行い、選んだ理由を共有する。 ○学習問題②に対する自分なりの答えを考え共有する。 ○ゲストティーチャーより児童へのメッセージを聞く。 ○これまでの学習をもとに、単元全体の振り返りを書く。	○投票する場面を設定することで、立候補者の内容に注目し、これからの高崎市について多角的に考えられるようにする。 ○投票した理由を共有することで、自分にはない視点の意見に触れることができるようにする。 ○学習問題②の答えを考えさせることで、よりよい高崎市を考えることができるようにする。 ○ゲストティーチャーから、児童の演説を聞いての感想やこれからの社会に対して学んでほしいことを話していただくことで、社会参画意識を高められるようにする。		◆ ◆

単元の評価規準

- 【知識・技能】①調べたことを図や文にまとめ、地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。
②政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地方公共団体の政治の取組を理解している。
- 【思考・判断・表現】政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見出し、地方公共団体の政治の取組について考え、適切に表現している。
- 【主体的に学習に取り組む態度】①地方公共団体の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②学習したことをもとに、自分と社会とのつながりに気付き、よりよい社会を考え生活に生かそうとしている。

5 本時の学習

(1) ねらい 学習したことをもとに、これからの高崎市について考えることができる。

(2) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間	支援・指導上の留意点 ☆支援を要する児童への手立て
<p>1. 学習問題②と本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 立候補者の演説を聞き、これからの高崎市について今の自分の考えをもとう。</p> </div>	2	<p>○前時とは異なる班になるように座席配置を工夫することで、自分自身と違う意見をもつ人と意図的に交流できるようにする。</p>
<p>2. 市議会議員立候補役の演説を聞く。</p> <p>3. 投票を行い、選んだ理由を共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・私が投票した人を選んだ理由は、たくさんの人にとって便利になる政策であり税金以上の効果が上げられると思ったからです。</p> <p>・私が投票した人は、日常生活で困っている人に向けて対策されていて、私も人々が快適に過ごすためにその政策は大切だと思い投票しました。</p> </div> <p>4. 学習問題②に対する自分なりの答えを考え共有する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・高崎市をこれからも生活しやすい街にするためには、子供が遊べる公園を増やすべきだ。遊び場ができれば、家族で住む人を増やすことができる。また、住宅地の中に自然が生まれ、環境にもいいと思う。</p> </div>	3 3 (10) (15) (8)	<p>○投票する場面を設定することで、立候補者の内容に注目し、これからの高崎市について多角的に考えられるようにする。</p> <p>○選んだ理由を共有することで、自分にはない視点の意見に触れられるようにする。</p> <p>○班で選んだ理由を話し、感想や質問を聞くようにすることで、自分の考えを全員が表現できる場をつくとともに、自分の考えをより明確にできるようにする。</p> <p>○学習問題②の答えを考えさせることで、よりよい高崎市を考えられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆〔思〕学習問題②に対する考えを書くことができる。(単元ポートフォリオ)</p> </div>
<p>5. ゲストティーチャーより児童へのメッセージを聞く。</p> <p>6. これまでの学習をもとに、単元全体の振り返りを書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・自分は、この単元を通して自分自身が、高崎市に住んでいる人たちによって当たり前前に生活できていることが分かった。そして、住みよい街にするために毎日考えてくれている人がいることも分かる。私はこれからいろいろな人の意見を聞くようにして社会に関心を持ち、自分自身の意見を伝えていくことを大切にしていきたい。</p> </div>	1 0 (5) (5)	<p>○ゲストティーチャーから、児童の演説を聞いての感想や、これからの社会に対して学んでほしいことを話してもらうことで、社会参画意識を高められるようにする。</p> <p>○「塚沢小のふりかえりの視点」に沿って振り返らせることで、本時での児童の学びや成長への気づきを捉えられるようにする。</p> <p>☆振り返りを共有し、だれでも見られるようにすることで、学び方を知ったり学びを深めたりできるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆〔主〕学習したことをもとに自分と社会とのつながりに気づき、生活に生かそうとしている。(単元ポートフォリオ)</p> </div>